

令和4年度

事業報告書

公益財団法人 通信文化協会

目 次

1	はじめに	1
2	郵政博物館の運営事業	1
	(1) 郵政博物館の展示活動等	1
	(2) 資料に関する情報提供、教育普及活動等	3
	(3) 近隣文化施設との連携	3
3	前島密賞の贈呈事業	3
4	通信文化の普及・発展事業	4
	(1) 会報「通信文化」の発行	4
	(2) 文化講演会等の開催等	5
	(3) 青少年ペンフレンドクラブ(P F C)への活動支援	6
	(4) 社会貢献活動の実施	6
5	土地・建物賃貸事業	6
6	会員に対する諸施策	7
	(1) 叙勲祝賀会等の開催	7
	(2) 記念品等の贈呈	7
	(3) 団体傷害保険等の取扱い	7
7	会員増加対策	7
8	役員会議等開催状況	8
	(1) 理事会	8
	(2) 評議員会	9
9	業務等の見直し	9
	「事業報告の附属明細書」はない旨の記載	9

1 はじめに

本協会は、明治41年5月に通信協会として発足、同43年には「財団法人通信協会」に改組し、百余年の歴史を刻んできたが、平成24年3月28日、内閣総理大臣から公益財団法人として認定を受け、同年4月1日に「公益財団法人通信文化協会」として新たにスタートした。

当協会は郵政博物館の運営、前島密賞の贈呈、通信文化の普及・発展等に関する事業を行い、もって我が国の手紙等文字コミュニケーション文化と情報通信・放送文化の向上に寄与することを目的として文化活動等各種施策を実施した。

収蔵施設については千葉県市川市 行徳郵便局内に「郵政博物館資料センター」を設置している。

2 郵政博物館の運営事業

郵政博物館は、郵政・通信文化の普及・発展に向け次世代の利用者との幅広い交流を図り、歴史的資料・知識を後世に伝えることを目的として、東京スカイツリータウン・ソラマチ9階にオープンして9年目を迎えた。

日本郵政(株)からの受託及び(一財)ゆうちょ財団、(一財)簡易保険加入者協会からの寄附により、「展示」、「収集・保存、調査研究」、「文化・教育普及、生涯学習支援」という博物館における3つの活動を行い、不特定多数の方にとって文化教養を磨く場、教育普及の場としての活動を行っている。

令和4年度は令和3年度に引き続き新型コロナウイルス感染予防策を講じながらの運営となった。スタッフはマスク、フェイスガード、手袋を着用のほか、備品類の消毒等を実施した。お客様にはマスクの着用、入場時の手指の消毒、フィジカルディスタンスの確保等のお願いをした。

(1) 郵政博物館の展示活動等

ア 展示活動

押上展示場の常設展示室では、「心ヲツナグ 世界ヲツナグ」をコンセプトテーマとして、体験型のデジタル機器や映像手法などを使って郵政文化を楽しく体感できる展示としているが、新型コロナウイルス感染予防のため、ラジオ体操体験機器以外の手で触れる体験型機器類を撤去又は中止としていたが、秋から一部を再開した。

同展示場の企画展示室では、郵政・通信文化の歴史を伝承するとともに文化・学術・教育の発展への寄与を目的とした、特別展(企画展)を以下のとおり、4回開催した。そのうち夏休みイベントでは、ラジオ体操と貯金についての展示コーナーも設けたほか、1週間ずつ増えていくクイズに回答するごとにラジオ体操が描かれたカードをプレゼントした。

令和4年度の押上展示場への入館者は42,057名(対当初計画87.6%)、開館日数は320日で、一日平均131名となった。

なお、前島記念館は7,273人、坂野記念館は4,452人、沖縄郵政資料センターは895人の入館者があり、郵政博物館全体で54,677人となった。

(ア) 特別展(企画展)開催状況

No	特別展名	期間	開催日数	入館者数(人)
1	夏休みイベント よう、怪!快?展~きみも妖怪博士になろう~	7月1日 ~9月27日	86	10,019
2	一切手でみるにっぽんの食ーおいしい切手展	10月8日 ~12月4日	50	4,491
3	五十嵐健太飛び猫写真展 同時開催もふあつめ展	1月14日 ~3月21日	58	17,388
4	スタンペックス2023	3月25日 ~3月27日	3	731

(イ) 多目的スペース等での主なイベント開催状況

No	主催者	イベント名	期間
1	郵政博物館	GW ワークショップ「おたよりを出そう&プラ板でお名前チャームを作ろう」	4月29日~5月5日
2	郵政博物館 NPO 法人郵趣振興協会	郵博 特別切手コレクション展 「沖縄復帰 50 周年記念切手展」	5月7日~5月15日
3	郵政博物館 NPO 法人郵趣振興協会	郵博 特別切手コレクション展 「第5回南方占領地のフィラテリー展」	6月18日~6月19日
4	郵政博物館	新収蔵寄贈展	6月21日~7月18日
5	郵政博物館	七彩長屋 ウノ・カマキリと6人の店子たち展 出張版	7月23日~8月7日
6	郵政博物館	唐沢なをきの妖怪図鑑図鑑展	8月10日~8月23日
7	郵政博物館	河童色紙画コレクション展	8月26日~9月19日
8	郵政博物館	郵博 特別切手コレクション展 「第9回ヨーロッパ切手展」	9月23日~9月25日
9	受信環境クリーン中央協議会	第55回「令和4年度受信環境クリーン図案コンクール」入賞作品展	10月20日~10月30日
10	ゆうちょ財団	NGO 海外援助活動助成に係る民間海外援助団体の活動 パネル展示	11月2日~11月20日
11	郵政博物館	卯年年賀状展	12月6日~1月9日
12	郵政博物館 NPO 法人郵趣振興協会	郵博 特別切手コレクション展 「第5回いずみ展」	2月4日~2月5日
13	郵政博物館 日本郵便株式会社	ぼすくまの春休み in 郵政博物館	3月21日、3月25日、 3月26日

押上展示場以外では、前島記念館(新潟県上越市)、坂野記念館(岡山県岡山市)及び沖縄郵政資料センター(沖縄県那覇市)において、地域に縁の深い資料の展示活動を行っている。

イ 資料の収集・保存、調査研究活動

博物館活動の基盤で重要な活動となる資料の収集・保存活動は、収蔵資料のデジタル化の推進、ネット上等での公開など、昨今のネット情報社会に対応した取組みを継続しており、本年度は36件の収集を行った。さらに資料整理プロジェクトを8月1日から開始し、郵便ポスト類、制服類の調査・整理・撮影を行い、約1,500点のデータ登録活動を実施した。

また、調査研究については、研究者向けの学問的水準を維持する一方で、広く社会に研究成果を公開することを目指し、通信文化に関する研究活動を積極的に推進した。発足して14年目を迎えた郵政歴史文化研究会では、郵政博物館が収蔵する美術資料の分野における研究の充実を目的として個別研究を開始した。

(ア) 郵政歴史文化研究会の開催（第1～第5分科会）

(イ) 研究紀要の発行（第14号：令和5年3月発行）

(ウ) その他調査研究・修復・保存整理の実施等

(2) 資料に関する情報提供、教育普及活動等

収蔵資料に関して、報道関係者、他の博物館・美術館、ドラマ・映画制作会社、研究者等からの資料の撮影や閲覧、取材等に対応したほか、通信文化資料の有効活用のために、他の博物館・美術館・資料館に収蔵資料の貸出及び画像データ提供を行った。また、本年度は開局150年を迎えた郵便局からの企画協力要請に協力した。

また、教育・普及活動の一端として、博物館学芸員課程受講者を対象に博物館実習を行ったほか、日本郵政グループの社員研修等にも協力し、講義や見学研修などを行った。

No.	項目	件数
A	特別閲覧	35件
B	撮影・データ提供・掲載・放映	173件
C	貸出	82件
D	取材・照会回答	251件

(3) 近隣文化施設との連携

「すみだ北斎美術館」や東京スカイツリータウン・ソラマチとの連携等により、地域振興・活性化施策の推進を図った。

3 前島密賞の贈呈事業

前島密賞は、近代国家の建設に当たり、社会の基盤となる郵便や物流をはじめとしたネットワークを整備し、国民の暮らしに多大な利便性をもたらした通信事業の創始者である前島密の功績を記念し、文字コミュニケーション・情報通信・放送分野でその精神を伝承・発展せしめるために、昭和30年度に創設された。また、令和2年度（第66回）から、現在活躍し今後もなお一層の功績が期待される者を対象とした奨励賞を創設した。

以来、令和3年度までに同分野において顕著な功績のあった方々に対して、前島密賞は1, 155名・17団体、奨励賞は9名に贈呈して、その功績を称え顕彰するとともに文字コミュニケーション・情報通信・放送文化の発展に寄与してきた。

令和4年度の前島密賞（第68回）については、例年同様に各推薦機関（総務省、日本郵政㈱、日本電信電話㈱、日本放送協会、電気通信事業者協会、日本ITU協会、日本民間放送連盟、電波産業会、日本ケーブルテレビ連盟）からの推薦と当協会からの推薦により実施した。

令和4年7月8日に募集要綱をホームページで公表するとともに、同年9月30日を締切日として推薦を依頼し、2回の選考委員会及び理事会決議を経て、前島密賞は24名（個人8名、共同研究16名）・1団体、奨励賞は個人4名の受賞者を決定し、令和5年4月6日に多数の参加者の下に贈呈式を開催した。受賞者の氏名、功績概要等は、各報道機関に通知したほか、当協会のホームページで公表するとともに会報「通信文化」に掲載した。

4 通信文化の普及・発展事業

(1) 会報「通信文化」の発行

記事内容は、読者の約6割を占める郵政グループ現役社員に役立つものとするため、社会の多様化に対応した内容の「ダイバーシティ通信」を引き続き掲載し、郵便局等での様々な社員の活躍や郵便局での取り組みなどを紹介した。また、郵政グループの経営関連の記事を増強したほか、マネジメントに関する記事も多く掲載した。

健康問題は、読者の関心が極めて高いことから、医師の鎌田實氏の執筆する「人生100年時代をどう生きるか」を引き続き掲載し、読者からは好評を得ている。また、読者への還元として、当選者に各地の名産品等が当たる「読者プレゼント」を引き続き実施した。

特集記事コーナーでは、著名人による講演会の内容を「岡野裕基金記念講演会」記事として紹介するなど、毎回読者アンケートで好評を得ている。

なお、こうした会報編集に加えて、会報に掲載する広告の募集にも力を入れ、昨年度に引き続き広告収入の確保に取り組んだ。

年間12回 756,000部発行 (月平均63,000部)

(敬称略)

発行月	特 集 記 事	執筆者又は話し手
4年 4月	執筆 「“シニア”ではない「新しい生き方」	人生100年時代 未来ビジョン研究所 阪 本 節 郎
5月	第67回前島密賞受賞記念インタビュー 「郵便も変化の時代に」	東京経済大学経営学部教授 総務省情報通信審議会委員 米 山 高 生
6月	インタビュー 「親日度はトップレベル 太平洋の島国 パラオの魅力」	前パラオ国駐在日本大使 山田 俊之 聞き手 通信文化協会会長 團 宏明

7月	「通信文化」読者座談会 第 67 回前島密賞受賞記念インタビュー 「ゆうちょオンラインシステム開発ひと筋に五十年」	及川美奈子・菅野将人・杉岡満知子 堤 靖典・古河豊吉・濃添 隆(聞き手) 元(株)ゆうちょ銀行副社長 間瀬 朝久 聞き手 前通信文化協会理事長 斎尾 親徳
8月	第 67 回前島密賞受賞記念講演 「言葉のチカラは、どこから来るか!?!」 第 67 回前島密賞奨励賞受賞記念インタビュー 「窓口接客で全国三位 役職者として活躍中」	元 NHK エグゼクティブアナウンサー 三宅 民夫 浦添パルコシティ郵便局 平識 明子 聞き手 通信文化協会理事 佐村 知子
9月	岡野裕基金記念講演会 「感動体験を生むホスピタリティ」 第 67 回前島密賞受賞記念 「インターネットが私に翼をくれた」	トリプル・ウィン・パートナーズ代表 目黒 勝道 NPO 法人ブロードバンドスクール協会理事 若宮 正子
10月	岡野裕基金記念講演会 「答えは相手の中にある」	プロ野球コーチ 白井 一幸
11月	インタビュー 「デジタル社会を目指して」	デジタル庁審議官 犬童 周作
12月	沖縄復帰 50 年座談会 「沖縄復帰五十年を振り返る(前編)」 執筆 「強いチームとリーダーの役割「心理的安全性」の作り方」	仲本 薫・佐藤裁也・團 宏明(聞き手) 一般社団法人チーム開発研究所理事 青島 美佳
5年 1月	沖縄復帰 50 年座談会 「沖縄復帰五十年を振り返る(後編)」 執筆 「わが国における DX 化の課題とその解決策」	仲本 薫・佐藤裁也・團 宏明(聞き手) 早稲田大学研究戦略センター教授 稲田 修一
2月	執筆 「30代と50代では全然違う!?コミュニケーションギャップの傾向と対策」	人生100年時代 未来ビジョン研究所 阪本 節郎
3月	執筆 「定年後も働き続けるために」	リクルートワークス研究所研究員・アナリスト 坂本 貴志

(2) 文化講演会の開催等

文化講演会等の開催については、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、拡大防止の基本対策を徹底しつつ、コロナ禍前と比べて開催数等は少ないものの、着実に実施したところである。

当協会の元会長である故 岡野 裕氏の夫人からの寄附(1億円)による「岡野裕基金」により、全国各地において、「文化講演会」を5回、総数1,028人の参加を得て開催するとともに、手紙教室を23回、総数5,721人の参加を得て開催し、文化活動を行った。

文化講演会等開催状況

地方本部	開催日	施策名等	講師	開催場所	参加者数
四国	R4. 5. 31	監督に学んだ部下をやる気にさせるマネジメント	太田 幸司氏 株式会社 毎日放送 野球解説者	日本郵便(株)四国支社・ 講堂(愛媛県松山市)	50人
北海道	R4. 6. 10	郵便局及び管理機関である支社社員に対するコーチングスキルの習得 「答えは相手の中にある」	白井 一幸氏 プロ野球解説者、侍 ジャパンヘッドコー チ、元日本ハムファ イターズ一軍コーチ	日本郵便(株)北海道支社 2階講堂及び第一会議室 (札幌市)	230人
九州	R5. 1. 11	日本郵便株式会社「ダイバ ーシティセミナー」 「心をつかむ人材育成術」	山本 昌邦氏 サッカー解説者	日本郵便(株)九州支社 (熊本市中央区)	383人
沖縄	R5. 3. 3	「貯蓄から資産形成へ」～ 資産形成の浸透に係る郵便 局の果たすべき役割につ いて～	岡本 進氏 人財アジア 代表取締役社長	日本郵便(株)沖縄支社 6階講堂	215人
信越	R5. 3. 14	支社長応援 Letter「プレミ アム講演会」 「すべての経験に無駄はない」	高橋 昌彦氏 日本郵政(株)日 本郵政グループ女子 陸上部 監督	ホテルメトロポリタン 長野	150人

(3) 青少年ペンフレンドクラブ(PFC)への活動支援

ア 地域交流会活動支援

例年、手紙によるコミュニケーションの活性化を全国的に広めるため、日本郵便(株)各支社において開催される「PFC会員交流会」の講師の手配、会場の確保、ノベルティグッズの提供などの支援を行っている。

イ 「レターパーク」読者プレゼント

「レターパーク(会員会報誌 毎月1回発行)」は、PFC会員メリットの重要ツールとなっている。読者に「通信文化協会」のPRも兼ねて、抽選により毎回20名へ賞品(レターセット等)と会報「通信文化」を贈呈した。

(4) 社会貢献活動の実施

社会貢献活動の一環として、ポスト清掃等を実施している。

5 土地・建物賃貸事業

全国6か所に所有している土地は、引続き賃貸しているほか、文京区湯島にある新湯島ビルの2・3階各室を賃貸マンションとし、その入居管理・ビル管理等を委託して、円滑な運営と安定した賃貸収入を確保するとともに、計画どおりの借入金返済を行った。

6 会員に対する諸施策

会員に対して、次の施策を実施した。

(1) 叙勲祝賀会等の開催

勲章を受章した本部及び関東・東京・南関東地方本部所属の会員を対象に、本部及び関東・東京・南関東地方本部の共催で、秋に祝賀会を開催した。

なお、新年賀詞交歓会は新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止とした。

(2) 記念品等の贈呈

ア 会員へのサービスとして、満61歳を迎える年度以降に在会10年以上となる個人会員1,468人に対し、「長期在会記念品」を贈呈した。

イ 米寿を迎えた個人会員539人に「米寿記念品」を贈呈した。

ウ 協会手帳を配付した（希望者のみ）。

(3) 団体傷害保険等の取扱い

通信文化協会会員及び郵政グループ社員を対象とする福利厚生のための傷害保険等契約状況は、次のとおりである。

【令和4年度における契約状況】

区 別	口・件数	保 険 料
団 体 保 険	75千口	592百万円
団 体 扱 保 険	5千件	254百万円

7 会員増加対策

令和4年度の会員増加対策については、新規入会の個人会員会費の1,000円割引キャンペーンの継続や定年退職者等のシニア会員への継続確保施策に取り組み、事業運営の基盤である会員の獲得に努めることとし、純増目標として、個人会員・法人会員(口数)を合わせた650人/口を設定した。

地方本部における勧奨活動体制としての運営委員会の開催や地域に密着した参与の積極的な勧奨活動体制の強化、また、会員サービスとしての会報の掲載内容充実を図り、身近な「地方本部だより」の発行、会費の税制優遇の周知などにより、新規加入会員は2,443人となったものの、年度末の個人会員数・法人会員(口数)に対しては、307人/口(対目標▲47.2%)の純減に留まった。

会員の現況は次のとおりである。

区 別	令和4年度末	令和3年度末	増・減
個人会員(人)	62,328	62,640	312人減
法人会員(口)	885	880	5口増

(個人会員地方本部等内訳)

区 別	令和4年度末(人)	区 別	令和4年度末(人)
北海道	5, 746	近畿	8, 639
東北	6, 161	中国	4, 581
関東	5, 607	四国	3, 233
東京	4, 730	九州	6, 806
南関東	2, 155	沖縄	517
信越	4, 129	本部	579
北陸	2, 341		
東海	7, 104	合計	62, 328

(参考)

「免除会員及び在会15年以上となる終身会員に対する寄附のお願い」として、平成22年度から会報の配付を希望する会員には会報郵送料等相当の寄附(支援)をお願いしており、令和4年度は1, 542人の会員から総額2, 344, 500円の寄附収入があった。

8 役員会議等開催状況

重要案件の審議のために開催した会議は、次のとおりである。

代表理事の職務執行状況の報告は、第32回及び第35回理事会において行った。

(1) 理事会

○ 第32回理事会 (令和4年5月27日)

- <議案> 1 令和3年度事業報告
2 令和3年度決算報告
3 特別寄附金の受入れ
4 定時評議員会の開催

- <報告> 1 岡野基金の継続
2 職務の執行状況 R04.02~R04.05

○ 第33回 理事会 (令和4年6月17日)

- <議案> 1 代表理事の選定

○ 第34回 理事会 (令和4年12月28日)

- <議案> 1 会員規程の一部改正

○ 第35回 理事会 (令和5年2月17日)

- <議案> 1 第68回前島密賞の授賞者決定
2 令和5年度事業計画

- 3 令和5年度収支予算、資金調達及び設備投資の見込み
- 4 給与規程の改正
- 5 定時評議員会の開催
- <報告> 1 個人会員会費の改定
- 2 顧問の委嘱
- 3 職務の執行状況 R04.05~R05.01

(2) 評議員会

○ 第21回 評議員会 (令和4年6月17日)

- <議案> 1 議長の選出
- 2 議事録署名人の選出
- 3 令和3年度決算報告書
- 4 理事、監事及び評議員の選任
- <報告> 1 令和3年度事業報告書
- 2 特別寄附金の受入

○ 第22回 評議員会 (令和5年3月15日)

- <議案> 1 議長の選出
- 2 議事録署名人の選出
- 3 令和5年度事業計画
- 4 令和5年度収支予算、資金調達及び設備投資の見込み
- <報告> 1 第68回前島密賞の贈呈
- 2 会員規程の一部改正
- 3 顧問の委嘱

9 業務等の見直し

協会の存立基盤である会員の確保・会費収入の確保は協会財務に連動する極めて重要な業務であるため、より一層、地方本部における執行体制の強化を図れる本部長等人材の活用・登用を推進している。

令和4年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和5年5月

公益財団法人 通信文化協会